

FAO / WHO 合同食品規格計画
第 40 回残留農薬部会

日時 : 2008 年 4 月 14 日 (月) ~4 月 19 日 (土)
場所 : 杭州 (中国)

議 題

1.	議題の採択
2.	報告者の選任
3.	コーデックス総会及びその他の部会からの付託事項
4.	2007 年 FAO/WHO 合同残留農薬専門家会議 (JMPP) からの一般審議事項の報告
5.	食品及び飼料における農薬最大残留基準値(MRL)案及び原案 (ステップ 7 及び 4)
6.	食品及び飼料のコーデックス分類の改訂原案 (ステップ 4)
7.	残留農薬の分析法に関する検討事項 (特別作業部会にて検討)
a)	残留農薬の測定のための結果の不確かさの推定に関する討議文書
b)	乳脂肪の全乳からの分離法に関する討議文書
c)	残留農薬分析の欧州モデル: 欧州技能試験を通じて得られた経験
8.	MRL を定期的に再評価する手順の検討に関する討議文書
9.	農薬に関するコーデックス優先リストの策定
10.	その他の事項及び今後の作業
i)	Global Minor Use Summit から提起された事項の検討
ii)	乳及び乳脂肪の最大残留基準値
iii)	コーデックスを通じて世界的に調和された MRL の実現
11.	次回会合の日程及び開催地
12.	報告書の採択

※標記会合と並行して、2008 年 4 月 15 日 (火) に「分析法に関する特別作業部会」(議題 7 に関連) が開催された。

第 40 回残留農薬部会 (CCPR) 概要

1. 開催日及び開催場所

日 時： 2008 年 4 月 14 日 (月) ～4 月 19 日 (土)

場 所： 杭州 (中国)

2. 参加国及び国際機関

58 加盟国、1 加盟機関 (EC)、8 国際機関 (参加者総数 227 名)。

3. 我が国からの出席者

厚生労働省医薬食品局食品全部国際食品室室長	池田 千絵子
農林水産省消費・安全局農産安全管理課長	朝倉 健司
厚生労働省医薬食品局食品全部基準審査課残留農薬係長	竹内 大輔
農林水産省消費・安全局農産安全管理課課長補佐	堀部 敦子
内閣府食品安全委員会事務局評価課 評価専門官	渡邊 栄喜
独立行政法人農林水産消費安全技術センター 農薬検査部 検査管理官	北村 恭朗
独立行政法人農林水産消費安全技術センター 農薬検査部 調査官農薬環境検査課検査管理官	柳沢 芳江

4. 主な審議結果

主要議題は以下の通り。

議題 5. 食品および飼料の農薬最大残留基準値 (MRL) 案及び原案の検討

今回の部会では、46 農薬に係る残留基準の検討が行われた。その結果は、以下のとおり。

○ 残留基準がステップ 8 に進められた農薬

Captan (007) Fenitrothion (037) Carbendazim (072) Fenpyroximate (193)
Indoxacarb (216) Bifenazate (219)

○ 残留基準がステップ 5/8 に進められた農薬

Carbaryl (008) Fenitrothion (037) Thiabendazole (065) Phosmet (103)
Triadimefon (133) Triazophos (143) Clofentezine (156)
Cyfluthrin/beta-cyfluthrin (157)
Propiconazole (160) Flusilazole (165) Triadimenol (168) Cyromazine (169)
Aminopyralid (220) Quinoxifen (222) Difenconazole (224) Dimethomorph (225)
Pyrimethanil (226) Zoxamide (227)

○ 残留基準がステップ 5 に進められた農薬

Triadimefon (133) Triazophos (143) Cyfluthrin/beta-cyfluthrin (157)
Flusilazole (165) Triadimenol (168)

○ 既存残留基準の削除が提案された農薬

Carbaryl (008) Endosulfan (032) Fenitrothion (037) Malathion (049)
Oxamyl (126) Triadimefon (133) Triazophos (143) Clofentezine (156)
Cyfluthrin/beta-cyfluthrin (157) Propiconazole (160) Flusilazole (165)
Triadimenol (168) Cyromazine (169)

○ 残留基準のステップを進めなかった農薬

(ステップ 7 に維持)

Chlorpyrifos-Methyl (090) Acephate (095) Methamidophos (100)
Phorate (112) Prochloraz (142) Fenpyroximate (193) Haloxyfop (194)
Esfenvalerate (204) Metalaxyl-M (212)

(ステップ 4 に維持)

Haloxyfop (194)

(ステップ 6 に差し戻し)

Carbaryl (008) Dimethoate (027) Methomyl (094) Carbofuran (096)
Oxamyl (126) Carbosulfan (145)

○ 一部の食品の残留基準の検討を中止した農薬

Endosulfan (032) Fenitrothion (037) Fenthion (039) Malathion (049)
Mevinphos (053) Thiabendazole (065) Methomyl (094) Phosmet (103)
Propiconazole (160) Oxydemeton-Methyl (166) Cyromazine (169)
Quinoxyfen (222) Pyrimethanil (226)

議題 6 食品及び飼料のコーデックス分類の改訂原案 (ステップ 4)

(1) 食品及び飼料のコーデックス分類の改定

オランダ及び米国が中心となって作業を行った「鱗茎野菜」及び「うり類以外の果菜」に関するコーデックス分類について、オランダから更に作業が必要であるとして、米国を議長とする電子作業部会を再度立ち上げることが提案された。我が国より作業部会の委託事項 (TOR) を明確にすべきと発言を行い、結果として本作業部会は上記野菜類及び「ベリー類及び小果実類」、「食用きのこ」のコーデックス分類を行うこととされた。

(2) Representative commodity の選定

米国より概要の説明がなされ、今回作成する予定のドキュメントについては、コーデックス分類とは切り離して作成することで合意。内容については、今回提案された文書 (Addendum II to CX/PR 08/40/4) を次回 JMPR で議論の上、第 41 回 CCPR に持ち越すこととされた。

議題 7：残留農薬の分析法に関する検討事項

(a) 結果の不確かさの推定法の適用に関する討議資料

第 29 回総会において、結果の不確かさに関するガイドライン案がステップ 8 で採択されたが、今回、各国・地域で現在どのように測定の不確かさを分析結果で報告させているのか、また、食品中の残留農薬のリスク管理にどのように活用しているのかについて、提供された情報を検討した。

広い範囲の農薬／食品の組み合わせについて分析する必要があることや分析方法も多様であることから、個々の不確かさを推定することはほぼ不可能であること、測定の不確かさの概念が公的検査機関に十分に理解されていないことなどから、Proficiency testing、分析法の妥当性確認、精度管理及び Horwitz 法などに基づいた、簡便かつ実用性のあるガイダンスを策定するよう提案があった。

部会は、ガイダンスの作成を含め本件の今後の進め方について、電子作業部会を立ち上げて討議文書を作成し、それに基づいて次回会合で検討することとした。

議題 10 その他及び今後の作業

コーデックスを通じての世界的に調和された MRL の実現

米国より各国での MRL 設定前に世界的な MRL の設定を行うためのパイロット・プロジェクトについての提案があったが、JMPR の独立性、有効なデータの提供可能性、登録に当たって提案された GAP が変更された場合の取扱い等について、各国から意見が出された。また、現在のコーデックス及び JMPR における原則及び手続きとの不一致が指摘された。結果、米国を議長とする電子作業部会が設立されることとなり、今後 TOR も含め第 41 回 CCPR に提出するための議論ペーパーを作成することとなった。

(参考)

残留農薬部会 (CCPR) の作業と今後のアクション

事項	ステップ	今後のアクション
農薬最大残留基準値 (MRL) 案及び改訂案	8	・第 31 回総会
MRL 案及び改訂原案	5/8	・第 31 回総会
MRL 原案	5	・第 31 回総会 ・第 41 回 CCPR
MRLの削除が提案された農薬	—	・第 31 回総会
ステップ 7、4 に維持された MRL 案及び原案	7/4	・ JMPR、第 41 回 CCPR (JMPR の年間報告による)
ステップ 6 に差し戻された MRL 案	6	・ 2008 年 JMPR ・ 第 41 回 CCPR
食品及び資料のコーデックス分類の改訂原案	2/3	・ 第 31 回総会 ・ 電子作業部会 (座長: オランダ) ・ 第 41 回 CCPR
コーデックスを通じて世界的に調和された MRL の実現に関する討議文書	—	・ 電子作業部会 (座長: 米国) ・ 第 41 回 CCPR
農薬に関するコーデックス優先リストの設定 (定期的にも再評価される新規農薬と農薬)	1/2/3	・ 第 31 回総会 ・ 電子作業部会 (座長: オーストラリア) ・ 第 41 回 CCPR
残留農薬の測定結果の不確かさの推定	1/2/3	・ 第 31 回総会 ・ 電子作業部会 (座長: IAEA) ・ 第 41 回 CCPR
CCPR に適用するリスク分析の原則の改訂	手続きマニュアル	・ 第 31 回総会 ・ 電子作業部会 (座長: アルゼンチン) ・ 第 41 回 CCPR
MRL の案及び原案	作業中止	・ 第 31 回総会